おかぼこ山

Vol.121
2026 年
10 月 15 日発行

発行元
特別養護老人ホーム　カントリービラ青梅
（住所）青梅市長淵 1 丁目 930 番地 3
（電話）0428(23)6233　≪9:00～17:00≫
（Fax）0428(24)7047
（URL）https://country-villa.com/

COUNTRYVILLAOME

ごあいさつ

朝夕の風に涼しさを感じるようになり、秋の深まりを感じる季節となりました。10 月は、色とりどりの草花や木々の変化を楽しみながら、秋の味覚も味わえる季節です。(頻発していた台風の影響で金木犀の花が落ちて香りが弱くなってしまっているのは少し悲しいですが…。)月の終わりにはハロウィンもやってきて施設の行事食もハロウィンらしくかぼちゃが使われたお食事が出る予定です！
お客様にはハロウィンに馴染みのない世代の方もいらっしゃいますので新しいイベントとして楽しんでいただけたらと思います。
これから少しずつ朝晩の冷え込みも増してまいります。体調に気をつけながら、食欲の秋、芸術の秋など、それぞれの秋を楽しんでいきましょう。

イベント

【敬老会】9/19(土) ご家族様を施設の食堂へお呼びして敬老会を行いました！

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ご家族様をお招きせず、施設内でお客様の皆様をお祝いする形で敬老会を行ってきました。今年は久しぶりにご家族様をお招きし、太鼓の演奏を楽しんでいただいたり、軽食を囲んでお話をしたりしながら、皆様の長寿をお祝いしました。ご家族様と一緒に過ごす時間の中で、お客様のたくさんの笑顔が見られ、和やかで楽しいひとときとなりました。

今回の敬老会では、今後に向けて「もっとこうしたら過ごしやすいのでは」といった改善点も見つかりました。今回の経験を活かし、次年度はさらに皆様にゆったりと楽しく過ごしていただけるような、温かい会を作っていきたいと思います！



太鼓の演奏は青梅太鼓さんに行って頂きました！
太鼓の響く音には自律神経の安定やリラックス効果があると言われています。耳だけでなく身体全体で音を受け取るので長寿のお祝いにはうってつけですね！
青梅太鼓さん！素敵な演奏をして頂きありがとうございました！

クラブ・レク



4 階レク

4 階では旬の果物を使ったゼリーづくりが行われていました！
ブドウとミカンのゼリーが作られたようです。食欲の秋ですね！

2階レク

2階では版画をしていました！
ペットボトルのキャップと葉っぱに絵の具で色を付けて紙に押していきます。
秋らしい色の絵が完成しました。








手工芸クラブ

9/22の手工芸クラブは季節の物の絵を描いていただきました！
食堂の窓際で外を眺めながら描いたり、写真やイラストを見て描いたり集中して取り組まれていました。お客様に見えている景色が絵を通して知ることが出来て見ている方も楽しいです！


コスモス


花火


金木犀


風景画

【お知らせ】

- 秋冬の衣類販売の時期になりました。施設ではお客様のお洋服を夏物衣類から冬物衣類へ衣替えを行います。居室担当がそれぞれ担当のお客様の衣類を整理し、劣化している衣類や足りない衣類の買い替えを検討いたします。お客様がご自身で購入する衣類を選択する場合はお客様と近くの衣料品店へ行き購入します。購入する衣類をご自身で選ばない場合は、ご家族様に相談のもと必要な衣類を施設で購入するか、ご家族様にご持参又は郵送して頂きます。
  居室担当から必要な衣類のリストが共有されたお客様のご家族様にはご相談のご連絡をさせて頂きますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。
- 11月10日にインフルエンザワクチンの予防接種を行います。９月中旬にインフルエンザ予防接種同意書の送付をしているので返送して頂いた方で予防接種希望の方を対象に実施します。よろしくお願い致します。

【施設長のどうでもいい話】

今から３５年ほど前の話。全社協の社会福祉士の通信教育課程を「受験」しました。（今では民間の通信課程に受験があるなんて信じられませんが。）その時の問題の一つに「区別と差別の違いについて説明せよ」というものがありました。「区別とは特定の属性を基準とした類別であり、差別とは区別が行われた結果、不利益を被った集団が不利益を被った状態を表現するもので、差別を受ける側によって使用される。」という趣旨の回答をした記憶があります。今でも概ね間違ってはいないと思います。区別と差別。これは昨今日本人ファーストを標榜する集団が非常によく使用する言葉でもあります。但し使い方は「自分たちの主張は区別であって決して差別ではない。」というものです。実際にはいろいろな装飾がされていて聞く者が混乱しているうちに「区別」を正当化してしまう形で形成されています。これが様々な社会的不満を吸収しながらマスを形成し社会的な力を獲得していくことで排斥運動が生れます。ちなみに差別と区別で言えば、イスラエルがパレスチナ人に対し決して差別しているとは言わないように、差別をする側は自分たちの行為を決して差別とは言わないというのは自明です。なんでこのようなことを述べているかというと、介護は外国人介護労働者に支えられているという事実があるからです。介護の世界では既に外国人介護職員がいなければ破綻してしまうという現実があり、同様のことが他の産業でも生じています。（外国人排斥を最近流行の「陰謀論」で言うなら「日本人ファーストを叫びながら実は日本を滅ぼすことを狙った〇国の陰謀だ！」とでもなるのでしょう。）言葉もほぼわからない、文化も習慣も違う国に一人で介護の仕事をしにやってくる。自分ならとても出来るとは思えません。在留資格の「厳格化」もそうですが、真面目に働いている彼らを一方的に排斥して誰が得をするのでしょう。ちなみにうちの施設にはバングラデシュ・カンボジア・ミャンマー・ベトナムの人達がいます。言ってみれば日本人を含めそれぞれにとってそれぞれが「外国人」です。ですが私達には区別する別の「基準」もあります。「同僚」か「同僚でないか」です。介護の仕事をあきらめて帰国を選ぶなんてことが広がらないことを切に願います。